

60 フランスのムラージュ（蠟製皮膚病

模型）について

今泉 孝

ムラージュという言葉は、蠟製で実物大の皮膚病模型を意味するが、広義には解剖学的模型や、単に型に取って複製したものを指すこともある。フランスにおける皮膚科学的ムラージュの歴史は、一七世紀末にイタリアのズンモがパリに來た時から始まった、と考えられる。以來、主に解剖学的ムラージュが作られたが、皮膚科学の發達が目覚ましい一九世紀になって、皮膚病變を忠実に記録保存するために、ムラージュが盛んに作られるようになった。現在でもパリを中心に、数多くのムラージュが大切に保存されており、医学史的に貴重な資料となっている。今回は、フランスにおけるムラージュの歴史を、製作者やコレクションを中心に述べてみたい。

一、初期のムラージュ製作者たち

ズンモ（後にズンボと改名、一六五六～一七〇二） イタリア人でルイ一四世から解剖模型製作の独占権を得た。
ビエロン（一七一九～一八一五） 科学アカデミーにおいて二度供覧。

ロモニエ（一七四九～一八一八） ルーアン市立病院の外科医。

パンソン（一七四六～一八二八） 外科医。パリの健康学校（フランス革命後の医学校）のムラージュ製作者。

二、コレクション

デュピュイトラン（一七七七～一八三五） パリ大学医学部に寄贈。

パロー（一八二九～一八八三） 八八個？（ジユムラン製作）

フルニエ（一八三二～一九一四） 三一〇個？（ジユムラン製作）

ペアン（一八三〇～一八九八） 五一〇個（バレッタ製作）

スピッツネル（？～一八九六） デュピュイトランのコレクションから八〇個を購入。一八五六年に展示。一九

八五年にオークションにかけられ、現在はモンペリエ大

学が保管。

モンペリエ大学 一七九六年、ナポレオンがフィレンツェに滞在した時、スペコラ博物館のムラージュの複製を注文。フォンタナらが作った一三〇個が一八〇二年にパリに届いたが、モンペリエ大学の医学部に所蔵されることになった。医師デルマはロモニエからテクニックを学んだ。

三、サン・ルイ病院のミューゼ

一八八九年八月五日に開館（第一回国際皮膚科学梅毒学会がパリで開催された日）。総数四〇〇〇以上を数える。

四、サン・ルイ病院のムラージュ製作者たち

ジュール・バレッタ（一八三四〜一九二三） 二〇〇〇個以上。

ルイ・ニクレ（一八六七〜一九二四） 四八〇個。

クヴリヨール（?〜一九二六） 一〇個。

ステファヌ・リトル（?〜?） 最後の製作者で、一九五八年まで製作。

五、医学分野以外でのムラージュ

a、美術におけるムラージュ 各種素材を使用。

b、見世物、臘人形館について

ブヌワ（一六二九〜一七〇七） パリの貴族たちのムラージュを製作。

キュルティウス（?〜一七九四） 解剖学者で、一七七六年からパリでムラージュの見世物。

マリー・グレシヨルツ（キュルティウスの娘で、後のマダム・タツソー）（一七六一〜一八五〇） 革命家たちのデスマスクを製作。一八〇二年にロンドンに移り、各地を巡業。

ミューゼ・グレヴァン 一八八二年六月五日パリに開館し、現在も営業中。

（弘前大学医学部皮膚科）